

第44回街歩き：浅草・スカイツリー界隈の今・昔

2012.11.13

東悟子

東京スカイツリーが竣工して約半年。周辺の街がどのように代わってきているのか、浅草に江戸の灯りの風情が残っているのかなどを探りました。



ソラマチ 36階からの眺望

■概要

2012年5月の開業以来、多くの人でにぎわっている東京スカイツリー。そのライトアップも大変な注目を浴びました。東京の新しいシンボリックな存在になり、その周辺も活気づいたのではないかと予想されますが、実態はどうか、体感してきました。当日は3班に分かれてそれぞれ違うルート・場所を重点的に調査しました。

■1班：スカイツリー・ソラマチ→浅草

1班はスカイツリーの商業施設ソラマチからスタート。まずは2F店舗。全体の内装は白色で統一され、とても清潔感があり、天井も装飾が無いため、高い印象を受けました。しかし肝心の照明が全然良くない！全体的に照度が高過ぎると感じました。光源はLEDでしたが、白熱灯・蛍光灯よりさらに明るくなった印象を受けました。しかも電球色なので、どうしても暑苦しい圧迫感を感じました。また通路の照明が明る過ぎるので、店舗の照明が全然映えていませんでした。新しく注目が高い商業施設だったので、新しい照明の提言をして欲しかったと思います。

物販エリアは食品街より明るさを抑えた印象でしたが、味気無く感じました。

次に36階の飲食店エリアに向かいました。そのフロアには外を望める展望エリアがありますが、その天井には驚くほどの数のダウンライトが配され、夜の景色を眺めるにはきらきらしすぎていると感じました。ソラマチは洗練された印象を与えるための、多くの照明器具と照明手法が施され、どこもピカピカキラキラした印象でした。光源はLEDを使用しているため、照度は同じでもとてもまぶしく感じました。スカイツリーのライトアップは、光が流れるような動きは爽やかに綺麗でしたが、ぼんやりと浮かび上がるようなライティングはよく分かりませんでした。ツリーの存在感は圧倒的でしたが、街を歩くにつれ次第に目が慣れ風景に溶け込んでいった気がします。

(1班代表 鈴木幸男)

■2班：スカイツリー→隅田川沿い→浅草

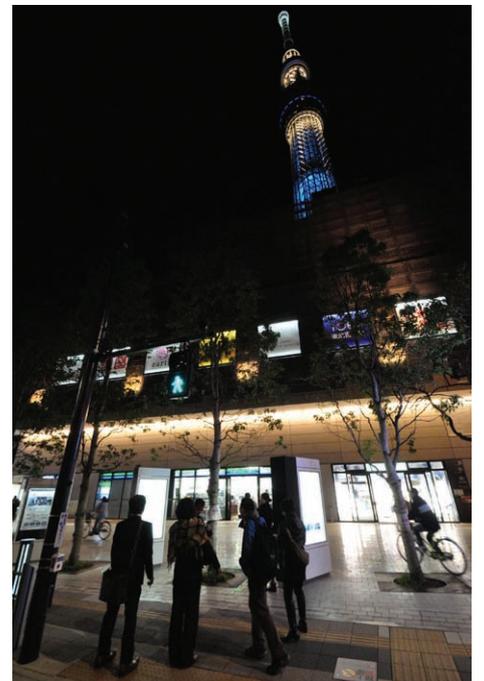
スカイツリーが出来ても変わらない下町。照明器具だけは新光源に替わったようですが『あかり』環境はよくない。震災後で明るさの大切さが分かったはずなのですが、床面平均照度へのこだわりが、眩しさという弊害を起し、もっと良く見えるだろうスカイツリーの夜景を殺しています。

2班はその原因を探るべく、スカイツリー駅から浅草周辺への街歩きを行いました。スカイツリー周辺の通りは、スカイツリーの華やかさとは違い、人通りも少なく、少しさみしい感じがする街並みでした。そんな街並みで、特に整備されることはなく、新旧の設備が点在しており、中には素敵な門構えの家もありましたが、総評すると暗めといった印象でした。ただし、そんな街並みを振り返って後ろをみると圧倒的な存在感のスカイツリーがそびえたっています。そんなギャップがとても印象的でした。

言問橋から、隅田川沿い周辺のLED街路灯は、スカイツリーの開業に合わせてリニューアルをしレトロなデザインを復元したようでしたが、車道側の光りが強すぎたため歩道側の光りが負け、地面にポールの影を落としてしまい歩道の一部を暗くしてしまっていたの反面、とてもグレアが強く、暗いのに眩しい印象。なんでも簡単にLED化すればいいというわけではないというのがすごく印象的でした。橋だけでなく、隅田川公園の川沿いに並んだLEDの街灯もグレアがつよくて、不快な印象。川の対岸から見てもかなり強い光がもれていました。空が広く見え景色のいいところだけに光害と言ってもいい環境でした。

街へ入り小学校周辺では、交差点の街灯を少し色温度を変えて、それとわかる工夫をしていました。色温度を変えることでこんな工夫もあるんだというのがわかり印象的でした。

平日の夜ということもあり街全体は大人しい印象でしたが、浅草の飲み屋街は客引きの威勢のいい声



スカイツリー駅前



ソラマチ食品売り場。たくさんの照明が至る所に設置されている。



ダウンライトがこんなにたくさん。

や仕事帰りの人で賑わっていました。浅草寺周辺では、器具や色温度にもあまり統一性がなくLEDを使用した新しいものや提灯のような古いものが混在していました。こんな提灯の明かり探しの街歩きも面白いかもしれません。洗練された白い光よりも色温度が低く少しバラつきのある光が多くある場所の方が下町・浅草らしいと感じました。

(2班代表 坂口真一)

■ 3班：浅草中心

3班は東京スカイツリー駅を出た後、本所吾妻橋商店街、駒形橋を通り、浅草エリアに着きました。浅草ではまず、仲見世や浅草寺など浅草の中心エリアを調査した後、馬道振興会や浅草小エリアを調査し、浅草寺の裏側を通って六区付近やすしや通りなど、再開発エリアを調査しました。

今回の街歩きのテーマが、変化しつつある街の今昔を考えるという内容であったので、最初に、江戸時代の地図と比較して浅草エリアの街並みの変化について、道が増えただけで、元々あった道並みは変化していないエリア(オレンジ色)、昔の道の形は残しつつ変化していったエリア(黄色)、完全に昔の道並みは残っていないエリア(紫色)の3つに分けました。地図上だと、面影が残っているように見えるエリアも、実際行ってみると土地の用途が変わっていて昔の面影はほとんど感じられませんでした。光環境に関しても、あまり感じられなかったです。ただ、雷門柳小路で白い光のレトロな街路灯とお店との光が調和して、懐かしい雰囲気を出していたり、六区の裏の飲み屋街では、透明な風よけシートから暖かい光が道全体に漏れ出していたりと、昭和の匂いを漂わせる場所はありました。光の英雄と犯罪者について、意見が割れたのは、仲見世通りの照明についてです。シンメトリーでパースペクティブな眺めが、白い光でさらに神聖な気持ちにかわる、と英雄と捕らえる人もいれば、とにかく明るければ良い、物が売れるという発想の典型ではないか、と少し派手すぎる浅草界隈照明の諸悪の根源ではないか、と犯罪者と捉える人もいました。ただ、全員の意見として、床面照度が400lxは明るすぎるのではないか、という結論になりました。

(3班代表 小菌早紀)

■ 感想

今回強く感じたのはLED化は時代の流れとなり、節電が重要となっている今、ますます普及していくことと思いますが、少ないエネルギーでさらに明るくすることができるという謳い文句で、さらに明るくなくなっているという状況が非常に残念でした。街全体としての光環境を考え、下町の風情をのこしつつ、新名所となったスカイツリーの洗練された印象も取り入れた夜の浅草・押上になるといいなと感じました。

(東悟子)



スカイツリー周辺の道路。光源をLEDに変えたばかりの印象。



雷門前。道の両脇に提灯がならび、にぎやか。



浅草仲見世。英雄 or 犯罪者？



煮込み通り。英雄 or 犯罪者？



人通りがまったくなく、さみしい雰囲気。



昔からの住宅も存在。



昭和の佇まいの医者さん。



浅草商店街。



今日の街歩きはたくさん歩きました。お疲れ様でした。

こどもワークショップ：われら闇の探検隊

2012.11.23.24

東悟子

江戸東京たてももの園でのこどもワークショップは今回で2回目。たてももの園は、小金井公園の豊かな緑の中に、江戸初期からの古いたてもものが並び、まるで違う時代にタイムスリップしたような錯覚を覚える場所です。普段は4時半閉園ですが、特別開演中の3日間は8時まで開いており、たてもものをライトアップしたり、広場をキャンドルで照らしたり、屋間とは一味違う幻想的な空間が出現しました。私たちの行ったこどもワークショップの主なコンテンツは4つ。行灯作りワークショップ・園内パレード・林の中の闇体験・囲炉裏体験。4時から7時までの長丁場でしたが、こども達は最後の囲炉裏での話まで、じっくり取り組んでいました。

■行灯作りワークショップ

まずは武蔵野美術大学の学生が行灯の作り方を説明。厚手のトレーシングペーパーに好きな形に切ったセロファンシールをはったり、ペンを使って絵を描いたりして、最後にガラスのコップに張り付けるという手順。最初は戸惑っていたこども達も、時間がたつにつれ徐々に集中。こどもによっては先に全ての形を切り終わって、シールを張っていく子もいれば、一枚一枚切って張り、作りながらデザインを考えていく子もいて、その作り方は様々。30分くらいで作れるだろうと予測していたのですが、どの子も1時間以上、集中して作業していました。

■園内パレード・闇体験

6時から、おのおのが作った行灯に火をともし、暗い園内をパレードしました。ろうそくが消えないよう、行灯を大事そうに抱え、歩くこども達。今にも消えそうな小さなあかりを覗き込み、消えていないか確認しながら運んでいました。暗い森に入る前には、行灯を消して本当の暗闇を体験したい子と、暗闇が怖くて消したくない子とにわけて進みましたが、多くの子が暗闇が怖くないと宣言し、果敢に林に入っていました。林の中は入る前は闇に見えたのですが、行灯を消しても、遠くに見える街路灯や月明かりで徐々に暗さに慣れると、お互いの顔がわかるくらいでした。みんなとくに怖がる様子もなく、いつもよりはずっと暗い道を歩いているはずなのに、「けっこうあかるといよ」と言っていて、暗さを楽しんでいるようでした。

■囲炉裏体験

その後は天明家という350年前の民家で囲炉裏の火を囲んでのお話。学芸員の高橋氏から囲炉裏の役割や昔の生活、囲炉裏を守っている鯉のはなしなど、興味深いお話を聞かせて頂きました。

11月の3連休に小金井市の江戸東京たてももの園の夜間特別開園“たてもものと紅葉のライトアップ”イベントが開催されました。その前半2日間、行灯作りと闇体験ワークショップを行い、夜の古い建物と囲炉裏、そして暗闇を楽しみました。



■感想

2日間とも予想を超える人出で、大盛況でした。闇体験の林の中は、足元もよく見えないような暗さだったのですが、ゆっくりゆっくり進むと、だんだんに目が慣れてきて、最後は人の顔もわかる程度になります。その中でいつもと違った感覚が研ぎ澄まされ、こども達の想像力が豊かになるといいなと思っています。

またゆっくりこども達と闇を体験できる機会を作りたいと思います。(東悟子)

